<u>広島都市学園大学 リハビリテーション学科</u> 2024*年度* 科目コード R6033 科目名 スポーツ障害理学療法学 履修区分 必修 開講期 3年後期 授業回数 単位数 1単位 15回 担当者 上川 紀道 スポーツ傷害・外傷に対する基本的な知識を習得し、各種スポーツ動作の検査・評価から治療までの流れを理解することを目的とする。あら ゆるスポーツ傷害の評価・治療・アスレティックリハビリテーションにおいて最も重要なことは、傷害をできる限り早く治療させ、その患者 授業の概要 を元の現場に受傷前と同様のレベルの能力で復帰させることにあるのは言うまでもない。それとともに、一例一例の障害の発生要因を丹念に 分析し、予防もしくは再発予防に結びつけることが必要である。そのためにも、各種スポーツ動作特性を理解すること、年代別における目標 設定の意義、患部だけでなく、全身的な問題点を抽出する考え方を学修する。 平和を希求する心と豊かな人間性を身につける 修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける 高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける DPとの関連 地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける 2025年度以降の学則適用者用のDPとの関連を記載しています。2024年度以前の学則適用者は項目順や表現が異なりますので注意してください DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力 ・各スポーツ障害の病態を考慮した評価を選択・実施することができる。 到達目標 ・患者様の訴えから評価を選択・実施して問題点を抽出することができる。 ・評価から得られた問題点に対して、安全で効果的な治療内容を選択して実施することができる。 ・講義資料は事前にCラーニング上にアップするので、必ず自身で印刷またはダウンロードしたデータを持参すること(タブレット可)。 履修上の注意事項 回数 講義内容【担当教員】 事前・事後学修 スポーツ傷害とリハビリテーション 1 基礎運動療法学について復習しておく。(60分) ・スポーツ傷害に対するリハビリテーションの基本理念 2 評価について考える ・全身のアライメントチェック 骨について復習しておく。(60分) スポーツ傷害とリハビリテーション 3 メカニカルストレスについて復習しておく。(60分) ・スポーツ外傷障害の発生メカニズム、トレーニングの3原理5原則 スポーツ障害について考える 4 肩関節の解剖学・運動学について復習しておく。(60分) ・野球肩についてスライドを見ながら理解を深める スポーツ障害について考える 5 膝関節の解剖学について復習しておく。(60分) ・野球肩についてスライドを見ながら理解を深める スポーツ傷害とリハビリテーション 6 膝関節の運動学について復習しておく。(60分) ・半月板損傷についてテキストから理解を深める スポーツ障害について考える マルアライメントについて復習しておく。(60分) 7 ・前十字靭帯損傷についてスライドを見ながら理解を深める 授業計画 スポーツ傷害とリハビリテーション マルアライメントについて復習しておく。(60分) 8 ・前十字靭帯損傷についてテキストから理解を深める スポーツ傷害とリハビリテーション 筋の起始停止について復習しておく。(60分) ・脊椎分離症、オスグッドシュラッター病についてテキストから理解を深める トレーニングの実践 10 筋の作用について復習しておく。(60分) ・チューブトレーニングとアジリティートレーニングを実際に行う キネシオテーピング ・キネシオテーピングの目的と各部位への貼り方を学ぶ 筋の起始停止について復習しておく。(60分) 11 12 キネシオテーピング ・キネシオテーピングの目的と各部位への貼り方を学ぶ 筋の起始停止について復習しておく。(60分) ファンクショナルテーピング ・一連の流れを練習する 13 足関節の解剖学について復習しておく(60分) ファンクショナルテーピング ・一連の流れを練習する 足関節の運動学について復習しておく(60分) 14 ファンクショナルテーピング・一連の流れを練習する 15 足関節の運動学について復習しておく(60分) 期末試験(100%) 成績評価方法 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。 書名・著者(出版社) ISBN⊐−ド スポーツ傷害のリハビリテーション・山下敏彦、武藤芳照(金原出版株式会社) 978-4-307-75050-9 教科書 参老書 解剖学・運動学・生理学・基礎運動療法学・整形外科学総論・理学療法評価学の復習を随時行うようにしてください。 教員からの メッセージ 講義最後にGoogle formで質問する機会を必ず設けます。 教員との

理学療法士としてスポーツクリニックで様々なスポーツ障害を有する患者様に対してリハビリテーションを実施してきた教員が担当します。

どんな疾患や患者様に対しても対応できる力を身に付けることを目指す講義です。

当該授業を通して理学療法士が実際にどのような考え方で患者様に接し、どのような評価や治療を実施していくのかを共に考え議論すること

連絡方法

実務経験の

ある教員